

第3回

世界の
薬局・薬剤師

新潟薬科大学健康推進連携センター教授 小林 大高

医薬販売者の時代乗り越え

昨年11月に鹿児島市で開催された日本薬剤師会の主催する学術発表会で、鹿児島市とナポリ市（イタリア）が姉妹都市提携を締結して55周年を記念する講演会が企画されました。この講演会では、ナポリ市からナポリ大学薬学部教授で、ナポリ薬剤師会会長のサンタガタ氏が登壇され、ナポリで奮闘する薬剤師の姿を歴史的な背景も含めて分かりやすく解説されました。



テレビの取材で「ナポリタン」を食べるナポリ薬剤師会会長サンタガタ氏（左）と腹心のコレンサントニ氏。鹿児島市とナポリ市との姉妹都市提携55周年を記念して日本薬剤師会学術大会に招聘されました。ナポリの薬剤師の奮闘とこれからを力強く講演していただきました。

「日本のナポリタンは？」との質問に、「イタリアでは、ケチャップを使わないので初めて食べる味だが、とてもおいしい」とリップサービスも忘れませんでした

サンタガタ会長によれば、ナポリも20年ほど前までは、薬局はただ処

方箋調剤を漫然とこなすだけだったといます。そこに「健康サービス」と



ナポリの重厚な門構えの薬局と笑いながら薬局の未来を話す薬剤師（ナポリ薬剤師会会長サンタガタ氏に薬局訪問を依頼すると、若い薬剤師のいる薬局ばかりに連れて行ってくれます。イタリア男性は……と思って話をよく聞いてみると、すべて彼の教え子が働いている薬局ばかりだから当然といえば当然でした。会長との距離感が近い地域薬剤師会には、何か一体感のようなものが感じられます）

医薬分業発祥の地
イタリアで始まる
薬局改革と新たな道筋
(1)



イタリア・パルマのパラファルマシー（薬局と異なり処方箋を受け付けることはない。薬剤師が常駐することになっているが、1人で営業しているところも多い）

このような概念は存在していなかったのです。ましてや、自ら積極的に患者さんや住民に歩み寄ろうなどという空気は微塵もなかった。どちらかといえば、店を構えて、処方箋を待つという「受け身」のスタイルだったといいます。日本でも、自戒の念を込めて「調剤

の購入はできません」と書いてありました。

ただイタリアの場合は、日本の「調剤専門薬局」とは事情が若干異なりました。日本では、一般用医薬品として解熱鎮痛剤や胃腸薬などが豊富に製造販売されているのにも関わらず、調剤薬局で扱っていません。しかし、当時のイタリアには、処方箋なしで購入できる医薬品自体が、ほとんど製造販売されていませんでした。国民保健サービスという医療制度が充実していたこともあるかもしれませんが、薬局で自分の症状に合った薬を自分自身で選んで購入するという文化が根付いていなかったのです。

どちらかといえば、かかりつけ医に診察してもらうほうが経済的でしたし、また一般的でした。ですから、処方箋なしで購入できる医薬品をあえて買おうとする消費者も多くはありません。つまり、一般用医薬品を製造販売しても商機はほとんどないと言えます。従って、一般用医薬品を開発して、製造販売しようとする企業がなかなか現れないという悪循環に陥っていたと言えます。

しかし、1990年頃からイタリアにも世界的な規制緩和の波が押し寄せるようになりました。「アメリカのようにスーパーマーケットで医薬品が自由に買えないのはおかしいのでは？」という声があちらこちらで聞かれるようになります。この声が契機となり、医

➤



日本で一番使われている国試対策の決定版!
40年で培われたノウハウと高い信頼!

青本

薬剤師国家試験対策 参考書



セツ価格 ¥34,000(税別)

薬ゼミは
全国の薬学生を応援します!

札幌・金沢教室



札幌市中央区北三条西2-1
NC 北専北三条ビル4F
Tel 011-281-8903



金沢市広岡二丁目 13-5
MHM 金沢ビル3F
Tel 076-261-8903



薬学ゼミナール

http://yakuzemi.ac.jp



0120-77-8903